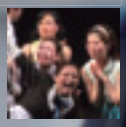
名古屋芸大グループ通信

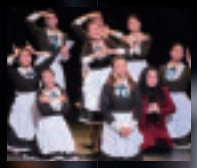
19 April 2012

＜特集＞

春、芽吹く。

第39回 名古屋芸術大学卒業制作展／卒業演奏会
第16回 大学院修了制作展
第14回 大学院修了演奏会





Close up! NUA-ism
～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB
ツライですよ。でも、ツライけど楽しい。
所 完頼

NUA-STUDENT
人が長く接するものを扱うのが
SDなのかなと思っています。
デザイン学部 スペースデザイン選択コース 4年
松尾祐弥

Lecture【レクチャー】
特別講義や講演会など
■『私の研究を語る』
田中範康 音楽学部教授
研究テーマ:現代の作曲について

International exchange
Activity【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など
■ 2011年度 ブライトン大学賞の
入賞者が決定し、表彰式が行われました

News/topics
ニュース&トピックス
音楽学部
■ 第34回名古屋芸術大学オペラ公演
「こうもり」が上演されました
■ ルネッサンス「鼓動」と
「カレイドスコープ2012」が行われました
■ アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第13回定期演奏会が開催されました

人間発達学部
■「2012年春を呼ぶコンサート」が行われました
美術学部
■「アートクリエイターコース、
レヴュー。」&「K−109展」が行われました
デザイン学部
■ 第22回 生涯学習大学公開講座
「織物講座合同作品展」が開催されました
グループ校特集
学校法人名古屋自由学院 滝子幼稚園
保育実践記録「食育」～特別なキュウリ～
コラムNUA
名古屋芸術大学と障がい者スポーツ
人間発達学部教養部会教授　石田直章

Master Artist
マスター&アーティスト
旅・デュシャン・リアル
デザイン学部 メディアデザインコース
講師　竹内 創

Information
インフォメーション
■ 教員著作(翻訳)の出版物のご紹介
■ 2012年度 オープンキャンパス日程
■ アート&デザインセンター
2012展覧会スケジュール(4月～9月)
■ 2012年度 音楽学部
演奏会スケジュール(5月～9月)

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
名古屋芸術大学グループ
http://www.nua.ac.jp

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究科
学部：音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部
■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校 保育科　介護福祉科
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■滝子幼稚園

Feature

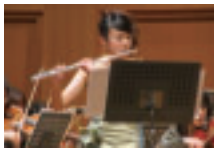
①

春、芽吹く。

＜特集＞

第39回 名古屋芸術大学卒業制作展／卒業演奏会
第16回 大学院修了制作展
第14回 大学院修了演奏会

④



③

2月～3月に渡り、本年も美術学部、デザイン学部、音楽学部の卒業制作展/卒業演奏会が開催されました。愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、本学西キャンパス アート＆デザインセンター、しらかわホールの4会場で行われ、本学関係者、学生たちの家族や友人、一般の来場者を迎え盛大に行われました。

学生生活の集大成であり、同時に社会へのデビューとなる展覧会/演奏会。まだまだ稚拙な部分があるものの発育中の“若い芽”たちの可能性を、それぞれに感じていただけたのではないでしょうか。

2011年度ブライトン大学賞 (⇨9ページ)

「ブライトン大学賞」とは、本学と姉妹校提携を結んでいる英国のブライトン大学が、本学の卒業制作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、毎年、相互の交流を深めています。

① 2011年度ブライトン大学賞 1等賞
『これがかきたかった』
水野里奈
美術学部 美術学科 洋画2コース

② 2011年度ブライトン大学賞 2等賞
『パノラマは夢みるものを取り残す』
中野彩愛
美術学部 美術学科 版画コース

③ 2011年度ブライトン大学賞 3等賞
『来院患者用電動カートの提案 Soica』
貴田遼平
デザイン学部 デザイン学科
インダストリアルデザインコース

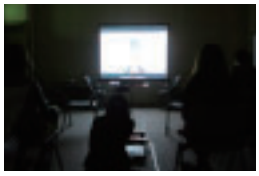
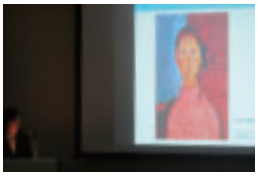
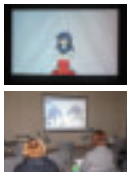
④ 2011年度ブライトン大学賞 3等賞
『at the stair of my home／Capri island』
田中里奈
美術学部 美術学科 洋画2コース

②

美術学部
デザイン学部
第 39 回
卒業制作展

2月21日～26日にかけ、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、西キャパス アート＆デザインセンターの3会場で行われました。各会場では、コースごとに担当教員とゲストにより講評会が行われ、プレゼンテーションを行った学生に批評やアドバイスが送られました。

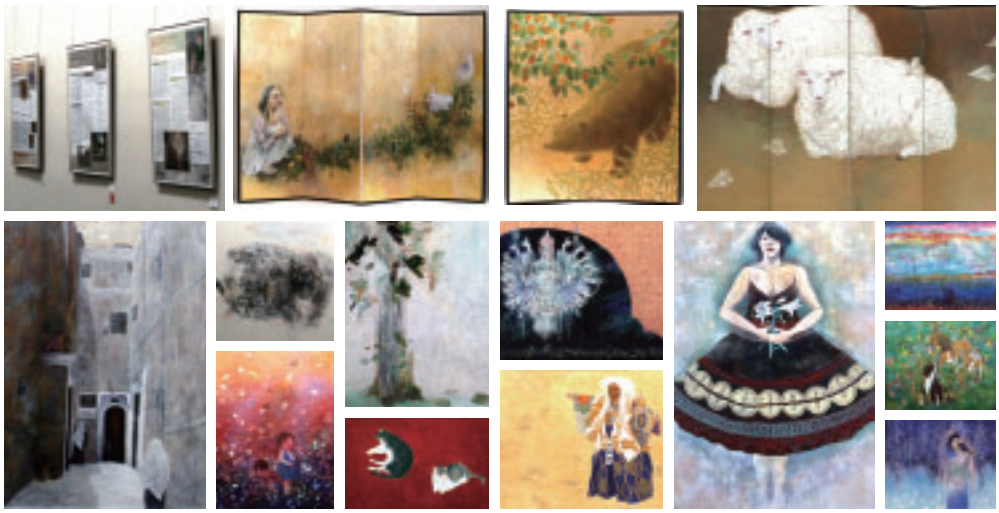
25日には美術文化コースの優秀卒業論文発表会・大学院美術研究科美術文化領域修士論文発表会が愛知県芸術文化センター、アートスペースで行われました。25日、26日には、同じ会場で映像作品上映会も開催され好評を博しました。

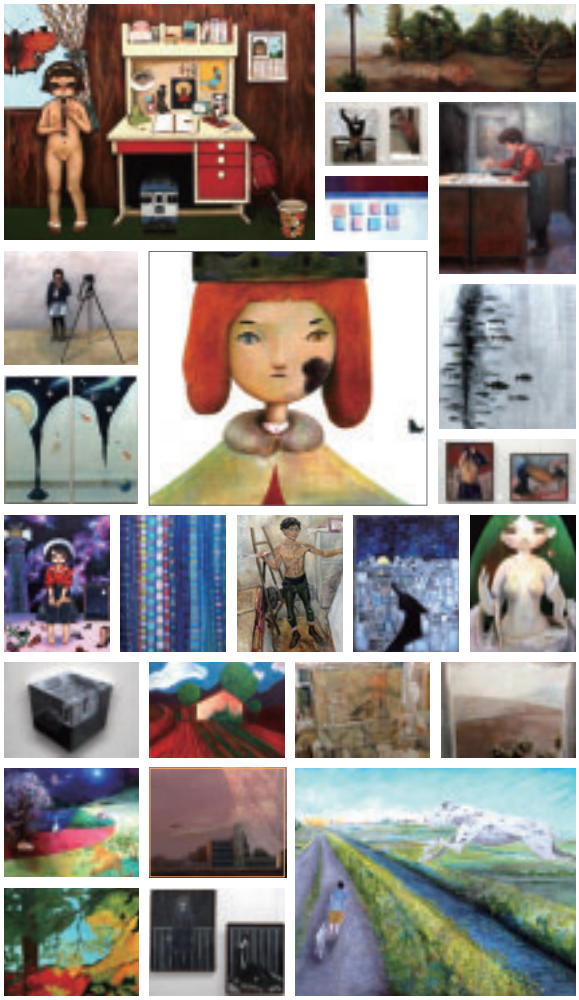




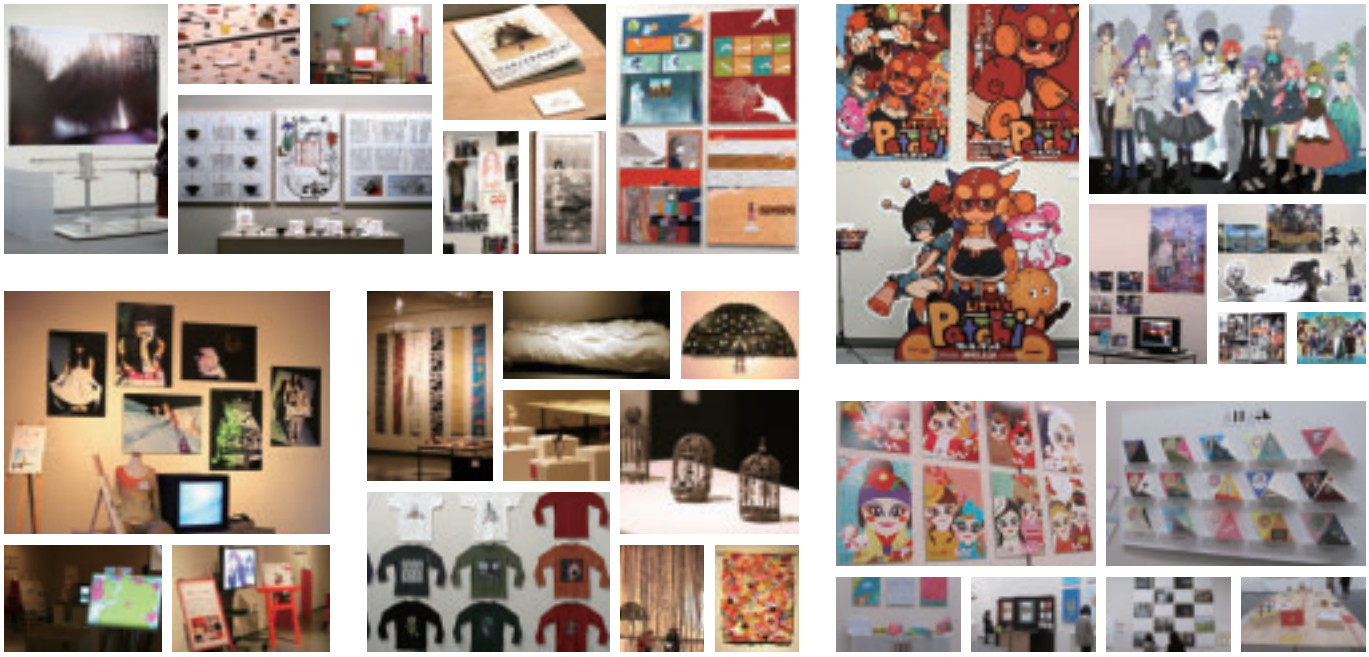
愛知県美術館ギャラリー

■美術学部　美術学科
- ●美術文化コース
  - 〈アートスタディ選択コース〉
  - 〈アートコミュニケーション選択コース〉
- ●日本画コース
- ●洋画 1 コース
- ●洋画 2 コース

■デザイン学部　デザイン学科
- ●デザインマネージメントコース
- ●スペースデザインコース
- ●インダストリアルデザインコース
- ●セラミックデザインコース
- ●メディアコミュニケーションデザインコース
- ●メディアデザインコース
- ●メタル＆ジュエリーデザインコース
- ●テキスタイルデザインコース
- ●イラストレーションコース
- ●ヴィジュアルデザインコース



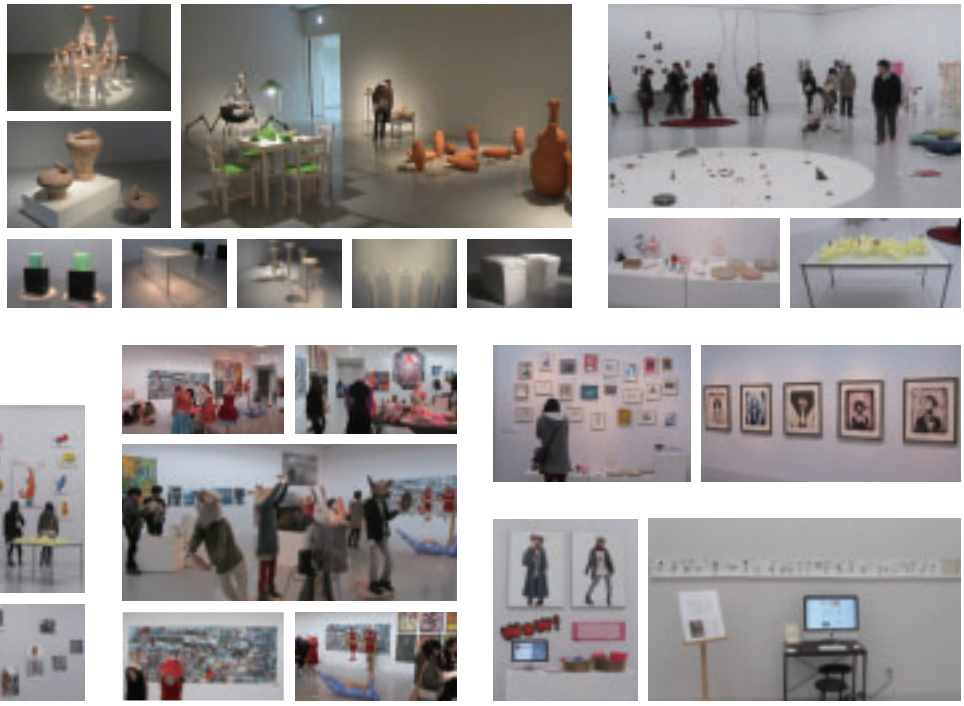




名古屋市民ギャラリー矢田

■美術学部　美術学科
- ●彫塑コース
- ●立体造形コース
- ●陶芸コース
- ●ガラスコース
- ●版画コース
- ●アートクリエイターコース

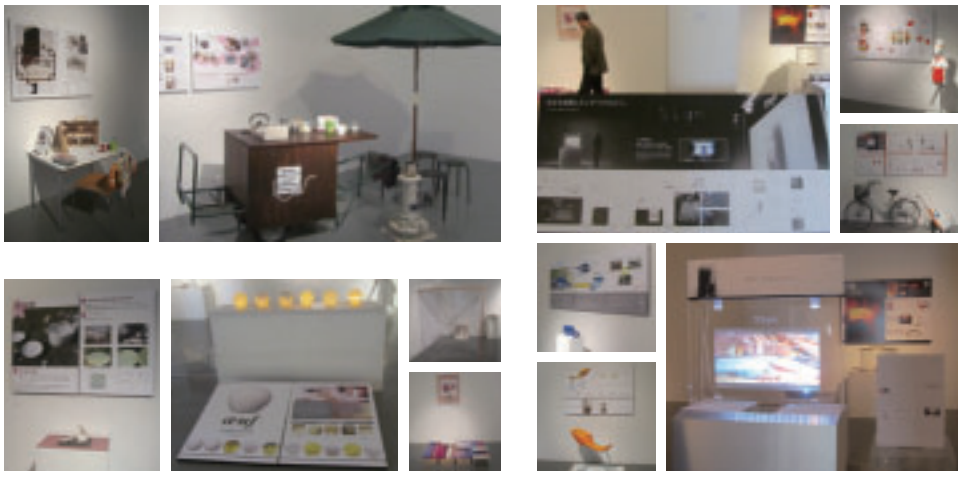
■デザイン学部　デザイン学科
- ●メディアデザインコース
- ●メタル&ジュエリーデザインコース
- ●テキスタイルデザインコース



名古屋芸術大学 西キャンパス アート&デザインセンター

■美術学部　美術学科
- ●洋画２コース

■デザイン学部　デザイン学科
- ●スペースデザインコース
- ●インダストリアルデザインコース
- ●セラミックデザインコース



記念講演会

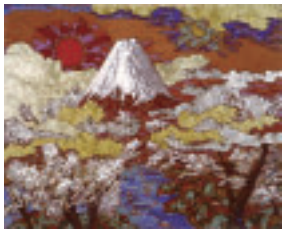
特別対談
絹谷幸二 × 仲居宏二

「アートの匙加減」

日本を代表する芸術家の絹谷幸二氏（左）と、NHKで多くの番組を手がけた仲居宏二氏（右）。笑顔の絶えない息の合ったお二人

長嶋茂雄監督との対談風景（左下）

NHKのテレビ番組「世界 わが心の旅」に出演した時の絹谷幸二氏



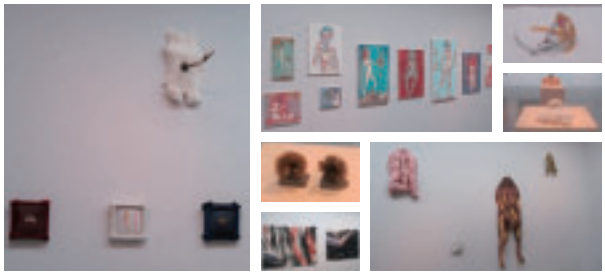
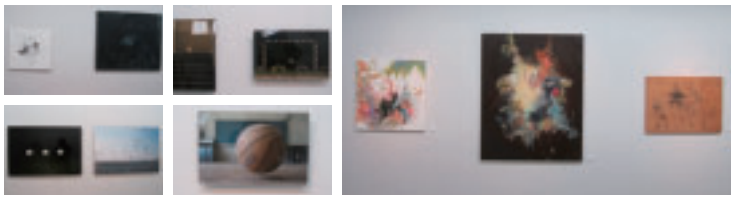
（左）多くの作品モチーフとなる富士山。2011年の「日月桜花爛満湖上富士」（中）代表作「アンジェラと蒼い空II」（1976年）
（右）絹谷氏の代表作の1つ、長野冬季五輪公式ポスター「銀峯の女神」（1997年）

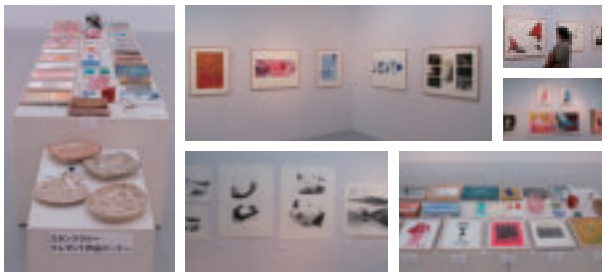
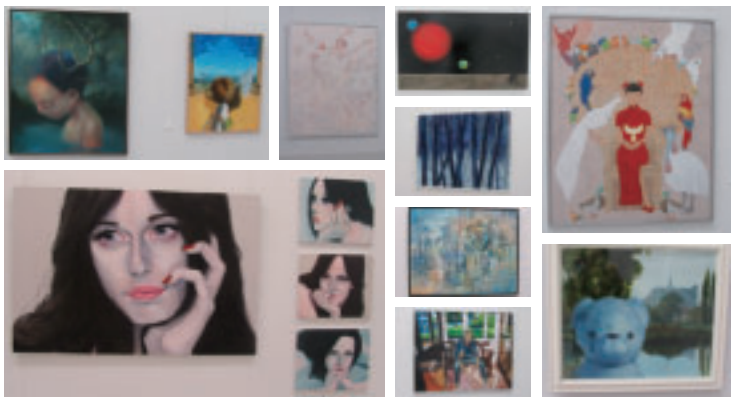
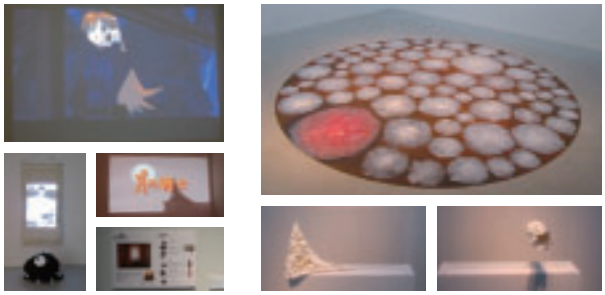
アフレスコ画（フレスコ画）の第一人者、東京藝術大学名誉教授の絹谷幸二氏と、NHK で教養、美術、教育番組などを数多く手がけ芸術への造詣が深い NHK エディケーショナルの仲居宏二氏をお招きし、「アートの匙加減」と銘打ち、大学と社会を繋ぐ取り組みについて対談形式で行なわれました。ぜんざいやチョコレートを作る際、隠し味に少量の塩を入れると、甘さが引き立ち深みが増します。絵を描く時も同じで、チューブから出したままの赤ではなく補色の緑を少し足すと、深みのあるいい赤が生まれます。これは社会にとっても同じで、1 つの考え方に偏らず反対の色（意見・考え）の存在がとても重要で、これこそがアートの役割のひとつであるというお話です。絹谷氏の代表作を映像でふり返り、氏自ら作品に解説を付けるという贅沢な演出に、来場者も真剣に耳を傾けていました。

大学院美術研究科 デザイン研究科

第 16 回 大学院美術研究科・デザイン研究科 修了制作展

2月28日～3月4日まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催されました。大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示され、非常に見ごたえのある展覧会となりました。

音楽学部

第 39 回 卒業演奏会

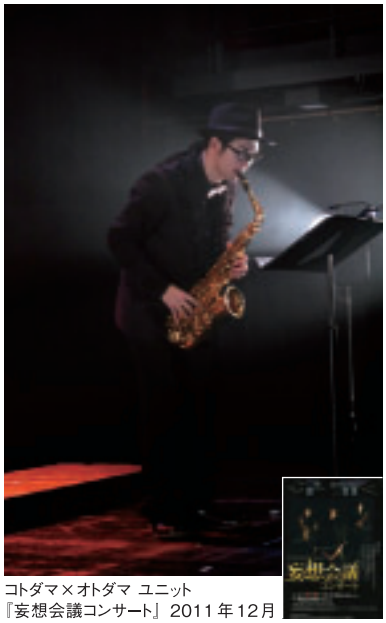
3月1日、2日の2日間、三井住友海上しらかわホールにて行われました。卒業試験で優秀な成績を収めた学生が、1日に13名、2日にも13名、合計26名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台に臨みました。指導教員、家族や友人が見守る中、日頃の練習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披露してくれました。また、同時に音楽文化創造学科音楽教育選択コースの優秀卒業論文が公表され、3名の優秀者が発表されました。

大学院 音楽研究科

第 14 回 修了演奏会

3月7日～9日の3日間には、第14回修了演奏会が同じしらかわホールにて行われました。音楽研究科修士課程を修了する院生全員が、大学院音楽研究科、大学音楽学部に所属する教員・卒業生を中心組織されたオーケストラ、コレギウム・アカデミカと共演する構成で、濱津清仁氏の指揮のもと、ソプラノ・バリトン独唱、フルート・ピアノ・ヴァイオリン・ヴィブラフォン・電子オルガン・ファゴット独奏など、各研究領域における熱演が繰り広げられました。

Close up!
進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-ism


コトダマ×オトダマ ユニット
『妄想会議コンサート』2011年12月

ツライですよ。でも、ツライけど楽しい。

Vol.39
NUA-OB
所 克頼
（ところ　かつより）
サクソフォン奏者

1981年　岐阜県生まれ
2004年　器楽科弦管打コース卒業
2005年　大学院音楽研究科を一旦退学、渡米
2006年　インディアナ大学音楽学部
　　パフォーマーディプロマ修了
2008年　大学院音楽研究科修了
2008年～大学音楽学部契約助手
2009, 2010, 2011年　ソロリサイタルを開催
遠藤宏幸、雲井雅人、三日月孝、オーティス・マーフィーの各氏に師事

フリーのサクソフォン奏者としてソロや室内楽での演奏や講師等東海地方を中心に活動。デュオ・ピクニック、クレセントカンパニー、妄想会議、竹林笹頼メンバー。ナゴヤサックスフェスタ実行委員。

2004年、大学院1年目の夏だった。後に教示を受けることとなるオーティス・マーフィー氏のコンサートを聴き、公開レッスンを受ける機会に恵まれた。それまでにも、アメリカに漠然とした憧れがあった。器楽演奏者が留学を考える場合、通常なら欧州を選ぶのが定石である。サックスは仏、パリへ渡航する場合が多い。聞けば、パリで研鑽するアメリカ人演奏家も多いのだそう。しかし、アメリカへ憧れた。「なにか人間味というか、暖かさを感じるんです」 アメリカというフィルターを透して見た欧州に惹かれたところもあるかもしれない。欧州とは何か異なった、音楽の作り方、演奏方法、楽器の操り方……、憧れは紡がれた。そして、マーフィー氏の音。生で触れ、心の中で何かが弾けた。「今、アメリカで教わりたい！」 翌日、すぐに担当の先生に相談した。「今は、熱が入っているところだから、よく考えなさい……」 当然の助言だ。院を終えてからでも遅くはない。しかし気持ちがまさった。「いやっ、今だからこそ。気持ちが変わってしまうことも怖かったんだと思います。できるなら今すぐ行きたいと。どこをどう考えても行きたかった」 結局、大学院を退学しても2年以内ならば復学できるという制度を利用、2年生になる前にアメリカへ渡った。

2009年からソロリサイタルを開催。3年間続け、今年はひと区切り。「今年は作品についての勉強に充てるつもりです」

『ナゴヤまちかどアンサンブル』2010年9月6日 JRタワーズ12階レストラン街にて

幼いころから始めたピアノ、中学では吹奏楽部に入りサックスと出会った。その頃には音楽教師になりたいという希望を抱き、音大への進学を決めていたというから早熟だ。「じつは、ピアノとサックスの両方をやっていたんですが、まず音大へ行くというのがあって、それでピアノを練習するより、サックスで受験することを勧められ、サックスを選んだんです。自分で決めたわけじゃないんです（笑）」

高校時代の3年間は受験勉強のためにサックスを練習していただけで、その面白さには気づいていなかったという。大学に入ると、それまで練習してきたことが血肉となったのか、改めて、サックスの深さ、そして音楽の面白さに惹かれていった。いつしか、教師になるよりも、演奏家になりたい、と思いも変わっていた。

「1年間のうち、半分はスランプですよ～」

日々の練習もバリバリこなすのかと思えばそうではないらしい。「楽器をケースから取り出すことに億劫になって、なかなか進まないんですよ。練習を始めるだけでも大変。やる気を出して練習して、本番やって、反省して、また、やる気を出して……、いつまで続くんだろうと、ちょっとネガティブに考えちゃうこともあるんです。ツライですよ。でも、ツライけど楽しい（笑）」

「お客さんに『いい曲だったね』と言ってもらえることがあるんです」「いい演奏だった」というよりも「いい曲だった」と言われた時が最高にうれしいと語ってくれた。自分も魅せられている音楽の魅力が、オーディエンスに伝わった証なのだろう。

Close up! NUA-ism

人が長く接するものを扱うのがSDなのかなと思っています。

Vol.40
NUA-STUDENT
松尾祐弥
（まつお　ゆうや）
デザイン学部スペースデザイン選択コース 4年
http://karasu.kuronowish.com/

–スペースデザイン(SD)ってどんなところ？

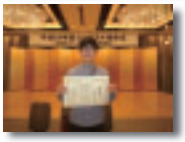
建築、商業建築、住宅、家具など、生活空間にあるもののデザインを考えるコースです。空間を意識することでインスタレーションなんかにも近いかもしれません。よく似ているインダストリアルデザインの違いは、家具や建築などスケールが大きいもの、道具であっても椅子だとか人が長く接するものを扱うのがSDなのかなと思っています。

–SDならではの授業ってある？

課題は実物を作ったり、模型でプレゼンしたりで完成なんですが、“先ず模型”っていうのがありまして、とにかく模型作りで時間が取られます。模型を作っていないときは、コンペやイベントに出たり、春秋に建築など見に行く遠足(！)があったりと、かなりアクティブなコースです。教室は、2〜4年まで一緒になって同じ空間で授業を受けていて、チームワーク抜群です。教室には電子レンジや冷蔵庫もあって住めるほどだし（笑）。とにかくハードですけど、思い切り自由にできる。

–コンテストで優秀賞を獲ったって？

社団法人インテリア産業協会の「キッチン空間アイデアコンテスト」で優秀賞をいただきました。地球に優しいエコキッチンを提案するという課題です。僕は、一人暮らしをしていますが、どうしても外食やインスタントのものを食べることが多くなります。それで、自炊することが増えればそれだけでエコだという切り口で、料理をやる気になる、友達と集まってわいわい料理ができるキッチンを提案しました。キッチンって、水道、作業スペース、ガスで成り立っていますが、人が来たときだけ作業スペースがスライドして広い空間を創り出せるようにする案です。単純だけど、今までになかった発想だと評価をいただきました。



「キッチン空間
アイデアコンテスト2011」
優秀賞作
『kitchen colosseum』
http://www.interior.or.jp/ks/contest/

–アパートでは料理してる？

SDの仲間と「料理研究部（非公式）」というのを勝手に立ち上げていまして（笑）、その体験がアイデアの元になっているんです。一人暮らしのキッチンは、一人の時にはいいけど、人が集まると使いにくいのをどうにかしたくて。料理研究部というのは、予算を決めてメンバーそれぞれが好きな食材を買ってきて、その食材を見て新しい料理を創作する(!?)活動をしているんです。一応、前菜、スープ、主菜、デザートくらいの品目を作るんですが、それぞれじゃんけんで、好きな食材を選べるんです。後のほうは、残った食材でなんとかして作るんです。大抵、ウケを狙って変な食材が用意されるんで、毎回、新しいものができるんですよ、味はさておき（笑）。

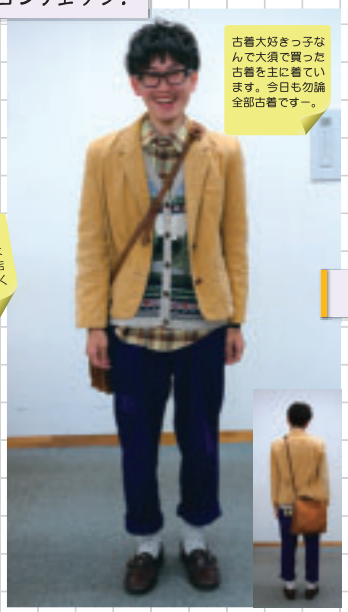
ノートはRHODIAのブロックシリーズ一筋。鞄から何冊も出てくる。メモやイラストがびっしり。「罫線の入っていないやつを使ってます。まず絵から入るタイプなので……」

松尾くんに聞きました。

授業は忙しい？

- 07:00 起床：パソコンの新着メールとニュースのチェック。朝ご飯を食べ、身支度しながら昨晩撮っておいたアニメを見ます。アニメのために早起きしてます。
- 09:00 自転車で大学へ：授業が無い日もだいたいこの時間帯に学校へ行き、制作をします。
- 12:00 昼休憩：授業が終わり、昼食をとります。クラスの友達と一緒に大学近くの「ヘルスバンク」へ。たまにみんなと教室で料理を作ったりもします。
- 13:00 制作再開：昼休憩を終え、実技や課題に戻ります。模型を作ったり、Macで図面を書いたり…。友達と雑談して休憩しつつ、ひたすら制作に没頭してます。
- 20:00 夕飯：友達と夜ご飯を食べに行きます。大学の近くにはお店も多く、大勢でよく出かけます。
- 21:00 帰宅：帰ったらまずアニメを見る！外食をしない日は夕飯を作り食べます。
- 22:00 課題制作：風呂に入り、音楽を聴きながら課題や頼まれている仕事などをします。忙しい時期だと友達と一緒に深夜まで作業することはとても多いです。
- 02:00 就寝

ファッションチェック！



古着大好きっ子なんで大須で買った古着を主に着ています。今日も勿論全部古着です－。

お小遣い・アルバイト

- お小遣い　3万/月
- アパート　家賃　4万/月
- アルバイト

「デザインの手伝いが多いです。たぶん普通にバイトするよりもお金がもらえるんじゃないかと。先生や先輩の紹介で家具の制作や劇団のDMとか宣伝美術の手伝いなんかをやっています。デザインの経験にもなりますしね」

持ち物検査

趣味は文房具?! ファーバーカステル、ロットリングがお気に入り。

Lecture

【レクチャー】
特別講義や講演会など

『私の研究を語る』田中範康 音楽学部教授 研究テーマ：現代の作曲について

日　　時：2012年2月29日
　　17：00～18：30
会　　場：東キャンパス 2号館
　　大アンサンブル室
講 演 者：田中範康
　　音楽学部 音楽文化創造学科
　　サウンド・メディア、
　　作曲・理論コース
演　　奏：竹内雅一（Cl.）、
　　山田敏裕（Pf.）
MAX/MSP：吉川敦
音　　響：堀山愛子
主　　幹：図書委員会

1. 現代音楽をとりまく状況

私が学生時代であった70～80年代の作曲家たちは、常に実験的で前衛的な音楽作りを目指していました。これは当時の70年代独特の文化的背景の影響と、権威主義的な音楽評論家やジャーナリズムの誘導であったともいえます。そのために一般リスナーにも難解な音楽として特殊な存在として映っていたといえるでしょう。当時の現代音楽は、一部のインテリ層や現代音楽マニアといった、コアな人たちに支持されるせまい世界に留まっていたといえます。さらに、この時代には、第二次大戦後実験的に繰り返されていた電子音楽が、音楽表現の一つとして重要な地位を得た時代ともいえます。もちろん当時は、今日の様な豊富なデバイスやコンピューターなどの機材も乏しく、作曲家たちは、暗中模索の中、電子音楽の制作に取り組んでいました。現在では、作曲家のそれぞれの個性と音楽語法を尊重することで、電子音楽を含め、バラエティーに富んだ様々な音楽作品が発表されています。その流れが現代音楽アレルギーを減少させ、少しずつですが聴衆を増やしているといえます。

2. 現代音楽の歴史背景（1）

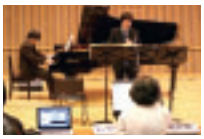
現代音楽が今のように変遷した歴史は19世紀後半にのフランスへ遡ります。後期ロマン派のワーグナーや、マーラー、ドビュッシーといった印象主義によって、その扉が開かれたのでした。現代音楽が生まれた背景には、250年もの長きに及ぶ、バロック時代から続いてきた「調性」による曲作りの行き詰まりや、新しい思想に影響されたた文化的背景、交通・通信網の発達により、新しい音楽表現の方法に触れる機会が増えたからなどと言われています。これらの流れはやがて20世紀の新しいシステムによる音楽の台頭につながるのです。

3. 現代音楽の歴史背景（2）

20世紀に入ると、十二音技法による音楽が台頭してきます。ウィーンのアルノルト・シェーンベルクは「調性音楽の時代は終わった」と宣言し、流れは無調整性音楽へと向かって行きます。彼の作品の中で、濁った音、激しいぶつかりの音などを聴くことができます。これは雑音、騒音も音楽表現の中で重要な要素であることを示しています。また、現在では当たり前に聴かれる打楽器の音が完全に市民権を得るのもこの時代でした。

第二次大戦後になると、当時のテクノロジーを音楽制作に利用する動きがでてきます。例えば、ミュージック・コンクレート（具体音楽）では、鳥の鳴き声やクルマ、電車が走る音などを混在させ、1つの音楽表現としました。磁気テープを繋いだり、逆回転したりして、世の中に存在する具体的な音を使って構築しているのが特徴です。さらに、同じ頃、ケルンで電子音楽スタジオが作られ、シュトックハウゼンが創始したと言われる正弦波などの波形変調による音色合成を駆使した電子音楽が発表されます。これは現代の電子音楽の元となる画期的な出来事でした。

このように、20世紀に入ってからの現代音楽の一つの流れは、テクノロジーの発達が深く関与しています。電子音を使った音楽が、以後も世の中にセンセーショナルを提供してきたといえます。また、現代音楽では、思想を前面に出して表現するようになりました。ジョン・ケージは「4分33秒」という曲で、奏者が曲の演奏時間である4分33秒間まったく楽器を弾かず、沈黙してみせました。この曲では、客席のざわめきなど、空間のすべての音を音楽とみなしたのです。



4. まとめ

現代音楽は、ともすれば難解な音楽に聴こえるかもしれません。しかし、現代音楽は、明確なコンセプトとシステムによって作られています。現代の作曲家には、これまでの現代音楽の潮流を踏まえ、あらゆる音楽スタイルを理解した上で、コンセプトとシステム構築に注力した上で、音を選択するセンスが求められています。そのプレッシャーは、時に作曲家に大きく圧し掛かってきます。しかし過去がそうであったように、現代の作曲家達は、今という時代の文化的背景と、急速に発展したテクノロジーの中で、新たな音楽を探求し続けなくてはならないと考えています。

最後に、私自身の曲作りについて解説します。現在は、空間に広がる響きを作る「自然倍音」を様々な方向から分析した結果をもとに、透明感を強く感じられる響きをもった作品を探求しています。また古典的な作曲技法である動機操作を、自から考えた新しいシステムで応用しています。今回演奏していただく2011年に東京で初演しました本作品では、既製の電子音は一切使わず、オリジナルの電子音、ライブエレクトロニクスで変調させた音と、アコースティック楽器の響きの融合を目指しました。正弦波やアコースティック楽器の波形をシンセサイズすることで、オリジナル音色を作るのも、現代の作曲家のテクニックの一つだと考えています。

【補足】講演時に引用された楽曲と演奏曲

- **アルノルト・シェーンベルク「5つのピアノ曲」**
  センセーショナルな十二音技法が聴ける曲です。緻密な理論で作り上げられた曲で、空間の中に独特の音響を醸し出しています
- **ルイジ・ルッソロ「都市の覚醒」**
  1900年初頭に登場した「未来派」と呼ばれる思想集団の一人、ルッソロの作品。この曲ではスピーカーが楽器として使われています
- **カールハインツ・シュトックハウゼン「STUDIE（習作）Ⅱ」**
  シュトックハウゼンは、「正弦波」を加工した電子音で作品を作りました。エレクトロニクスで独自の音色を作ることにより、作曲家自身が演奏家の役割を担うことになりました
- **エドガー・ヴァレーズ「イオニザシオン」**
  爆裂音楽作家として有名なヴァレーズ。この13人の奏者による打楽器アンサンブルは、管楽器の陰に隠れていた打楽器に、新たな光を当てた最初の曲といわれています
- **ヘンリー・カウエル「※曲目不明」**
  音の集合体である「トーン・クラスター」作品。弦楽器の特殊奏法（弓の背で叩いたり、引掻いたりして音を奏でたノイズ）で作られた曲です
- **スティーブ・ライヒ「Piano Phase dance」**
  「ミニマルミュージック」は、磁気テープなどを使ったループ手法を活用し、1つの旋律の上に、もう1つの旋律を重ね、その反復音のズレによって生じた音で曲を構成します
- **田中範康教授オリジナル曲「スパークリングスペース」実演**
  ライブエレクトロニクスと生楽器による作品です。ライブエレクトロニクスは、パソコンの中で瞬間的に音色を変化させることが可能です
  演奏　クラリネット　竹内雅一（本学教授）　ピアノ　山田敏裕（本学教授）

International exchange Activity

【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など

2011年度 ブライトン大学賞の入賞者が決定し、表彰式が行われました

2011年度ブライトン大学賞の入賞者が決定し、その表彰式が2月24日㈮、名古屋市中区栄4丁目の名古屋東急ホテルで行われました。1等賞1名、2等賞1名、3等賞2名と佳作6名の合計10名の優秀者が表彰されました。

「ブライトン大学賞」は、本学と姉妹校提携を結ぶ英国のブライトン大学が、本学の卒業制作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、毎年、相互の交流を深めています。

本年度は、ブライトン大学からカレン・ノーキィ教授（美術・メ

ディア学部長）とジョアンナ・ローリィ教授（写真コース）の両名が来日され、卒業制作展の行われた3会場（本学西キャンパス、名古屋市民ギラリー矢田、愛知県美術館）を廻って作品を審査し、受賞者が決定されました。

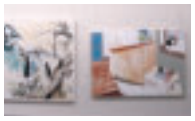
表彰式では、竹本学長の歓迎の挨拶に続いて、カレン・ノーキィ教授からブライトン大学を代表してお礼の挨拶と、今回審査した学生達の作品について、次のような総評がありました。

「今年は、学生の作品のレベルが大変高く、審査するのに大変苦労しました。我々は、2倍の数の賞を与えたいと思ったくらいです。作品の能力・質からして、あなた方は大変優秀な才能を持った学生を抱えていると思います。我々がお会いした学生は、自信に満ちて、魅力的で、個人的な意見を交わし合う繊細さも持っています。展示会は、活気に満ちて、創造的で、熟練しており、祝賀的なものでした。そして、私は、学生の皆さんが夫々のゴールを達成することに支援された先生方皆様にお祝いをさせて戴きます。」

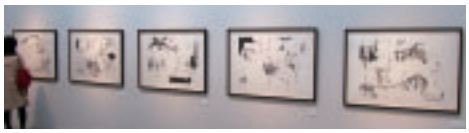
続いて、アンナ・ローリィ教授からも挨拶が行われ、その後、両教授から、受賞者一人ひとりに受賞の理由と表彰状が手渡され、予定どおり式典を終了しました。

1等賞を受賞した美術学部美術学科洋画2コース、水野里奈さんの作品に対しては、「洗練されたアプローチ、絵画の言葉と伝統的で且つ現代的なものへのアプローチです。この作品は極端に複雑で、完全な魅力ある喜びを表しています。」というコメントが送られました。

1等賞　水野里奈



3等賞　田中里奈



2等賞　中野彩愛

3等賞　貴田遼平

2011年度ブライトン大学賞入賞者一覧表

賞	科・コース	氏名	作品名
1等賞	美術学部　美術学科 洋画2コース	水野里奈	これがかきたかった
2等賞	美術学部　美術学科 版画コース	中野彩愛	パノラマは夢みるものを取り残す
3等賞	美術学部　美術学科 洋画2コース	田中里奈	at the stair of my home／Capri island
	デザイン学部　デザイン学科 インダストリアルデザインコース	貴田遼平	来院患者用電動カートの提案 Soica
佳作	デザイン学部　デザイン学科 メタル＆ジュエリーデザインコース	小出伶奈	包容
	美術学部　美術学科 版画コース	竹内　麻	ランプブラックはサラエボに
	美術学部　美術学科 立体造形コース	小澤道子	呼吸
	デザイン学部　デザイン学科 ヴィジュアルデザインコース	大平穂波	きのこさん
	デザイン学部　デザイン学科 スペースデザインコース	大久保圭	ヨムトコロ ー本のある暮らしの提案ー
	デザイン学部　デザイン学科 テキスタイルデザインコース	馬越景子	Another world

News & Topics ニュース&トピックス

音楽学部

第34回名古屋芸術大学オペラ公演「こうもり」が上演されました

2012年2月16日㈭、17日㈮と21日㈫に、音楽学部が主催するオペラ公演が上演されました。今回で34回を数える歴史ある名古屋芸術大学オペラ公演の演目は、オペレッタの王様とも呼ばれるヨハン・シュトラウス2世の傑作「こうもり」です。本学のオペラ公演としては、2004年の第26回公演以来、実に8年ぶりの上演。

この「こうもり」は3幕構成で、初演は1874年ウィーンのアン・デア・ウィーン劇場で行われました。オペレッタはオペラの中でも笑いの要素を強調した喜歌劇です。この「こうもり」は大晦日を物語の軸としていることから、ドイツ語圏の歌劇場では年末年始の定番として上演されています。

さて、舞台は1874年の大晦日。オーストリアのある銀行家アイゼンシュタインは、裁判官を侮辱した罪で短期間ですが刑務所に入ることとなりました。

第1幕はそんな慌ただしい最中、アイゼンシュタインは、友人のファルケ博士よりオルロフスキー侯爵のパーティに誘われます。それどころではないと断るアイゼンシュタインを、ファルケ博士はとても楽しいパーティだから、刑務所へはパーティが終わってからに行けば大丈夫とそそのかし、家族にも黙ってこっそり出かけるように事を謀ります。実はこのパーティ。以前、仮装舞踏会の帰り道、こうもりの衣装のまま酔いつぶれたファルケ博士を、アイゼンシュタインが置き去りにした事で、後に「こうもり博士」と皆に揶揄されたことへの仕返しに仕組んだもの。当のアイゼンシュタインはまったく疑いもせず、妻のロザリンデに内緒で喜び勇んでパーティへ出かけます。方や刑務所に入れられる夫のことを案ずるロザリンデの前に、元恋人のアルフレードが現れ、迷惑をかえりみず執拗に愛を囁きます。そこに、アイゼンシュタインを迎えにきた刑務所長のフランクが、アルフレードをアイゼンシュタインと間違えて刑務所に連れて帰ってしまいます。

第2幕は舞台が変わって、ロシアの大貴族オルロフスキー公爵のパーティ会場。ファルケ博士に連れられてきたアイゼンシュタインは、パーティ会場で我が家の女中アデーレに似た女性を見かけます。おかしいと思いつつも、仮面をつけた美しいハンガリーの貴婦人を見つけ、夢中になってしまします。実はこの仮面の貴婦人の正体は彼の妻ロザリンデなのです。これもファルケ博士が仕組んだ罠とは知らず、貴婦人を口説くアイゼンシュタインに、ロザリンテは口説かれるふりをしながら彼の懐中時計を浮気の証拠としてまんまと奪いとったのでした。

第3幕は翌日の早朝。刑務所に出頭したアイゼンシュタインは、自分の代わりに牢屋に入っている男（アルフレード）がいるのに驚きます。そこに、アルフレードを釈放してほしいと妻ロザリンテが現れ2度ビックリ。弁護士に変装したアイゼンシュタインに2人は相談を始めます。話しを聞いているうちに怒り出したアイゼンシュタインは、正体を明かしてロザリンテを責め立てます。しかし、彼女はすかさず夫の浮気の動かぬ証拠である懐中時計を見せつけ形勢逆転。困り果てるアイゼンシュタインの前にファルケ博士がパーティの参加者とともに現れ、すべては自分の仕組んだ芝居だったと種明かしをして、まんまと仕返しに成功するのでした。

カーテンコールに応える演者たち

【第1幕より】夫が刑務所に入るのを悲しむ妻ロザリンデと女中のアデーレ。

【第2幕より】大掛かりな仕返しを企むファルケ博士と退屈を紛らわす余興として協力するオルロフスキー公爵。

【第3幕より】女優になるためパトロンとして刑務所長フランクの元を訪ねるアデーレとその姉イーダ。

【第3幕より】ファルケ博士の仕組んだ芝居と分かってほっと胸をなで下ろすアイゼンシュタイン。演者全員で「シャンパンの歌」を合唱

東日本大震災の被災地へ想いを馳せ、「がんばれ日本」を合言葉に和太鼓クラブが力強い太鼓の音を東北の地へ届ける

電子オルガンコースとミュージカルコースのメンバーは、「ラ・バンバ」の演奏とダンスを披露

この「こうもり」の魅力は、個性的で、なんとも憎めない魅力的な登場人物たち。そして、ヨハン・シュトラウス2世の耳当たりの良いウィンナワルツの数々です。さらに、名古屋芸術大学のオペラ公演ならではの、OBや教員が賛助出演している点も見逃せません。アイゼンシュタイン役には大学院音楽研究科声楽専攻オペラ表現研究卒業生で、いくつものオペラで主役を演じるテノールの加藤利幸氏。ファルケ博士役は音楽学部声楽科の卒業生で、数々のオペラやミュージカルで活躍するバリトンの和下田大典。他にも、刑務所長フランク役には、院卒で第41回イタリア声楽コンコルソ金賞を受賞、多数のオペラ出演やソリストとして活躍するバスの伊藤貴之氏。元恋人アルフレード役の中井亮一非常勤講師や刑務所看守フロッシュ役の塚本伸彦講師が脇を固めています。

また、ロザリンデをはじめアデーレ、オルロフスキー公爵など、重要な登場人物たちを演じる院生や在学生は、各日、各幕で配役が変わるので、個性が際立つ多彩な歌と芝居が堪能できます。

今回、昨年3月11日に東北で発生した、東日本大震災への義援金を募るとともに、東日本大震災で被害に遭った方を少しでも元気づけようと、第2幕劇中に、名古屋芸術大学和太鼓クラブと電子オルガンコース＆ミュージカルコースのメンバーが応援に駆け付け、演奏やダンスを披露しました。今回のコンセプトはがんばれ日本、がんばろう東北でした。義援金は6万円ほど集まりました。

総監督・演出の澤脇達晴氏は、今回の「こうもり」の上演にあたり、プログラムにこのようなコメントを寄せています。

「こうもり」は洒落た大人のお芝居で、メロディは難しく、かなりのテクニックが必要です。経験のない学生には無謀な選曲かもしれませんが、学生諸君はチームワークでそれぞれ助け合い、この難曲に取り組んでもらいたい。これから日本を支えていく若者に、その熱意を見せて欲しい（※一部要約・抜粋）。と語っています。

今回の上演で、学生たちは十分に澤脇総監督の想いに応えられたのではないでしょうか。その証拠に、会場を埋め尽くした観客から“ブラボー”の掛け声と、いつまでも鳴り止まないカーテンコールの拍手が贈られました。

【上演日程／会場】
2012年2月16日㈭、17日㈮／名古屋市芸術創造センターホール
2012年2月21日㈫／岡崎市シビックセンターコロネット

音楽学部

ルネッサンス「鼓動」と「カレイドスコープ2012」が行われました

「クラシック音楽とオーケストラに革命を起こす」として2003年よりスタートした「ザ　ルネッサンス21」、9回目となった今年は、「ルネッサンス」と改名し、より今の時代に合った新しいコンサートになり、2月24日に名古屋市の熱田文化小劇場で、「鼓動」というテーマで行われました。

演奏は、濱津清仁氏の指揮によるセントラル愛知交響楽団で、オーケストラの伝統的な編成に加え、新たに編入された楽器や、コンピュータによるエフェクト、楽曲にリンクした映像などを織り交ぜた従来のコンサートにはない現代的で実験的なコンサートとして上演されました。

“芸術”と“テクノロジー”“映像”と“音楽”の共鳴　をコンセプトとしたカレイドスコープ2012は、3月11日愛知県芸術劇場小ホールで、昼と夜の部2回に分かれて行われました。

昼の部は、サウンドメディアコースが中心となり、音楽制作、立体音響を担当。音楽ビジネスコースが企画と演出を行い、それぞれの知識やアイデアを生かしあって、最先端のテクノロジーとヒューマンな発想を融合させた未来志向のアート空間の創造をめざしました。

今回のテーマは「Sympathy」。Sympathyは共鳴という意味で、人間とテクノロジーと芸術の共鳴を、音楽と映像で表現します。音楽は自由な発想に基づいた独創的なものとし、映像、演出面においては形や模様、色彩など視覚的にも楽しめる内容となっています。

今年の作品は、アコースティック楽器や、エレクトリック楽器と

ライブエレクトロニクスやプログラミングの融合した作品が、立体音響を用いた音表現で展開されていきました。

夜の部は、最先端のテクノロジーを多角的に駆使したゲスト作曲家と、名古屋芸術大学教員による作品コンサートでした。IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）に関わってきたピエール・シャルベ（フランス）、オリヴァー・シュネラ（ドイツ）、そしてCMMAS（メキシコ電子音楽センター）のディレクターであるロドリーゴ・シーガル（メキシコ）の国際的に活躍する3名の招待作曲家による個性的な作品と、田中範康、岩本渡、伊藤美由紀の3名の本学教員による新作を、アンサンブル・ノマドのメンバーによる演奏とサウンドメディアコースによるテクニカルサポートで、世界初演の演奏でした。

エレクトロニクスと生演奏の融合により生まれる新たな音の世界を追求したユニークなプログラムとなりました。

客席を埋めた満員の聴衆から大きな拍手が送られていました。

音楽学部

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン第13回定期演奏会が開催されました

2012年2月17日㈮、長久手市文化の家“森のホール”にて、音楽学部が主催する吹奏楽によるオーケストラ「アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン」第13回定期演奏会が開催されました。

演奏会は3部構成で、第1部はマーチングステージと学生による編曲・作曲作品の演奏パートです。オープニングのマーチングステージでは、鈴木英史氏の編曲によるアップテンポな喜歌劇「メリー・ウィドウ」セレクション（F.レハール作曲）の演奏に乗って、奏者たちはステージを縦横無尽に行進。演奏学科3年生の小﨑杏那さんのソプラノソロを挟んで、マーチングバンドならではの軽快な演奏を披露。続いて、コメンテーターを務める前出の鈴木英史氏が、編曲・作曲と指揮に挑んだ3名の学生たちを紹介しました。歌劇「マノン・レスコー」の“間奏曲”（G.プッチーニ作曲）を編曲した矢野湧人さんと、ビゼーの手による戯曲「アルルの女」第1組曲“メヌエット”と第2組曲“ファランドール”を編曲した塚本隆雄さん。そして、今回唯一のオリジナル曲に挑戦した「牡丹一華」（アネモネ）の三輪ゆかりさんを交え、作品解説や取り組み秘話など話が弾みました。

ヤン氏の指揮による演奏

オープニングはテンポの良いマーチングステージでスタート

自ら編曲したビゼーの曲を指揮する塚田隆雄さん

第2部は小野川昭博氏を指揮に迎えての演奏

第2部は、名古屋芸術大学の講師でもある小野川昭博氏がコンダクターを務めるパートです。鈴木英史氏作曲のマーチ「シルバー・スピリッツ」をはじめ、E.ウィテ

カー作曲の「クラウドバースト」、「サガ・キャンディーダ」（B.アッペルモント作曲）の3曲で指揮を振りました。2曲目の「クラウドバースト」は“どしゃぶりの雨”という意味で、小野川氏は「指を鳴らして一緒に雨音を表現しましょう」と客席に協力を仰ぎ、観客は演奏に合わせて指を鳴らし、奏者たちと一体となったその音空間に酔いしれました。

最終パートの第3部は、名古屋芸術大学の客員教授でもある、ベルギーの作曲家ヤン・ヴァン デル ロースト氏が指揮を務めました。ヤン氏はブラスバンドや吹奏楽編成の作品をはじめ、声楽曲、室内楽曲など多くの曲を手掛けています。世界各国で著名な演奏家により作品がレコーディングされるなど、ヨーロッパの人気作曲家の一人。今回はヤン氏の作品「モンタニャールの詩」をはじめ、旋律を奏でる音がトランペットやクラリネット、弦楽器と目まぐるしく移っていく、ロシアの作曲家D.ショスタコーヴィチ作「祝典序曲」（D.ハンスバーガー編曲）。スペイン語で“王の道”というタイトルを持つ「エル・カミーノ・レアル」（A.リード作曲）の3曲をヤン氏の指揮で演奏しました。ヤン氏の指揮はとても情熱的で、奏者をはじめ、観客もどんどんその空気に引き込まれていきます。プログラムが終了すると、満員の会場からは喝采と、アンコールを求める大きな拍手が鳴り止まず、ヤン氏、小野川氏合わせて3曲のアンコール演奏が奏でられました。

人間発達学部

「2012年 春を呼ぶコンサート」が行われました

3月3日㈯、本学東キャンパス3号館ホールにおいて、人間発達学部主催の2012年春を呼ぶコンサートが開催されました。このコンサートは毎年早春のこの時期に開催されているもので、今回で3回目になります。人間発達学部内のゼミナールやサークルの学生が中心となって、担当教員も参加して行われているイベントで、合唱から楽器の演奏、ピアノの連弾、吹奏楽やバンド演奏、ダンス、パフォーマンス、リズム体操、和太鼓演奏など、盛りだくさんの内容で構成されています。

プログラムは第1部と第2部に分かれ、第1部では、三輪先生指導による合唱を皮切りに、ピアノとヴァイオリンの二重奏、星野先生のピアノソロと星野ゼミ学生によるピアノ連弾、最後は、音楽科指導法履修者による合唱でした。

第2部は、クラブやサークルの活動を発表する機会も兼ねたもので、Noise Bandによる吹奏楽演奏、Arctic Childrenによるバンド演奏、ダンスサークルのヒップホップダンスがあり、その後、大島ゼミ3年生によるラートパフォーマンス、リズム体操部による演技、古川先生のパフォーマンスが続き、和太鼓部による和太鼓演奏で終演となりました。

出演者と観客が一体となって、とても和やかで楽しいコンサートとなりました。

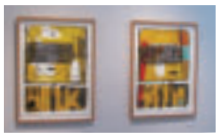
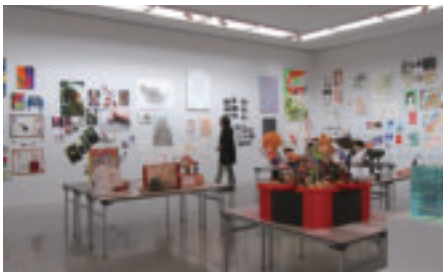
美術学部

「アートクリエイターコース、レヴュー。」&「K－109展」が行われました

2012年2月14日㈫から19日㈰まで、名古屋市東区の名古屋市民ギャラリー矢田で、本学美術学部アートクリエイターコースのレヴュー展および版画コースのK－109展が開催されました。

アートクリエイターコースでは、我が国の特色であるモノづくりの現場を活性化させることのできる様々なクリエイターの育成をめざして、工夫をこらしながら丁寧な指導を実践しています。このレヴュー展は、本コースの学生全員が、日頃の制作から選抜した作品を一堂に展示しています。

作品は、デッサン、アイディアとエスキース、ドローイング、絵画、彫刻、版画、マケット、ミニチュア・マケット、陶芸、写真など、いずれも授業で制作されたものです。また、作品に加えて、クリエイター研究の授業で行われた「OHOC＜One Hundred & One Creators＞／オーホック」（在学4年間で100名のクリエイターに出会い、卒業時には自分が101人目のクリエイターになることを自覚する講座）の、ユニークなレポートファイルも展示されました。

同時開催されたK－109展は、美術学部の版画コースに在籍する学生、大学院生と、教員や実技補助員など版画コース全体の展覧会で、本学版画コース設立当初の工房のあったK－109教室にちなんでその名が付けれています。

いずれの展覧会も毎年この時期に行われている恒例のイベントで、今年も、見ごたえのある作品が数多く展示されていて、多くの来場者が訪れていました。

Column NUA No.16

名古屋芸術大学と障がい者スポーツ

人間発達学部教養部会教授　石田直章

私が本学に赴任する以前から最も興味が有り、自分自身のライフワークだと考えている事の1つに、障がい者の身体機能に関する生理学的研究があります。人間の身体に何故不具合が生じ、それが治らずに継続する事に成るのかを考える時、ヒトが持っている様々な進化の歴史や成長に組み込まれた生理的機能の巧みさに驚かされます。他方、「障がいが有っても、その人が自らの人生を謳歌出来る様にする」ための一つの方法として、近年障がい者スポーツが盛んになってきました。私は、最近の興味として、この普及にも関わっています。障がい者がスポーツに取り組むという事で、多くの皆さんは身体機能のリハビリテーションの一環として行われている様な姿を想像するかもしれません。しかしながら実際には、障がいが有る事で若干の制限は有るものの、スポーツに取り組む姿勢は健常者と何ら変わらず、楽しみたい、勝ちたい、自らを高めたい等々、私達がスポーツに取り組む事と全く変わりは無いのです。そこにはスポーツとしての感動やフェアープレーの精神も有り、現在の世界的な発展状況の意味が良くわかります。多くの種目の中で私が関わりを持っているのは重量挙げ競技です。この種目の競技形態は、選手の下肢に障がいが有るため、ベンチ上で仰臥位をとりバーベルを差し挙げる「ベンチプレス」の重量を競うものです。正式にはIPC（International Paralympic Committee）Powerlifting競技と呼ばれています。競技としての歴史は古く、1964年に開催された東京パラリンピックの時には既に正式種目として行われ、今に至っています。日本では1999年に連盟（JDPF：Japan Disabled Powerlifting Federation）が設立され、私も縁あってその時から関わりを持っています。国内の選手の数は少なく約50名程ですが、全国各地で様々な障がいを持つ選手が練習に励んでいます。連盟設立の年

デザイン学部

第22回 生涯学習大学公開講座「織物講座合同作品展」が開催されました

2012年2月26日㈰から3月4日㈰まで、北名古屋市文化勤労会館（北名古屋市法成寺蔵北60）で、本学の第22回生涯学習大学公開講座の織物講座合同作品展が開催されました。

この作品展は、昨年の生涯学習講座で開講された2つの織物講座、「厚紙とリネン糸で自由な絵織り～身近な材料で枠機を作るところから～（講師：松本宣子氏）」と、「自然の色を染めて織る～リジット機を使って～（講師：榎本裕子氏）」の受講生が制作した作品の展覧会です。

リネン糸による繊細な透け感、ウールの暖かな発色…織物ならではのほっとするようなやさしさとなど、15人それぞれが表現した作品が展示されました。

グループ校特集

学校法人名古屋自由学院 滝子幼稚園

保育実践記録「食育」～特別なキュウリ～

年長ゆり組と年少さくらんぼ組との素敵な食育エピソードです！

夏のある日、ゆり組畑で実ったキュウリがたくさん収穫できました。今年は、畑作りから自分たちで行い、大切に野菜を育てていますので、収穫をとても喜びゆり組では何度もキュウリパーティーを行い、味わっていました。そこで、この日は他のクラスにもおすそ分けすることにし、給食さんにお願いして各クラスの給食にゆり組のキュウリを付け合わせていただくことにしたのです。そこで、ゆり組は「みんなに、ゆり組のキュウリが給食に入っていることを知らせなきゃ！」と話し合い、グループ毎にそれぞれのクラスへ手分けして出向いたのです。

さくらんぼの教室では、大好きなゆり組が、何かを伝えにきたと興味津々！！　つい先日、ゆり組が「ゆり組パーティ」を開き、ケーキと色水ジュースで年少さんをもてなし、手作り楽器を使って演奏会を開いてくれたばかりでした。ですから、ゆり組のお姉さんがきてくれたのは、またまた、パーティへのご招待かと、期待は大きく膨らんでいました。

ゆり組「今日、給食にゆり組の畑でとれたキュウリが入ってるよ。とってもおいしいから食べてね。」と伝えました。さくらんぼの子どもたちは、「キュウリ？ゆり組パーティじゃないの？」とがっかり。キュウリや野菜は、苦手な子が多いのです。しかし、年少さんの1学期は、まず給食に慣れることが大事で、先生や友だちと楽しく美味しく給食を食べましょう！という時期なので、担任はあえて無理に苦手なものを勧めたりせず、食べたいものを楽しく美味しく食べることを大切にしていました。何かのきっかけで意欲が湧いて自ら食べてみよう！と思うことが大事ですから無理に勧めることは、かえって逆効果ですよね。ですから、今はまだ、野菜の苦手な子どもが多く、給食にキュウリが出ても手をつけず残してしまう子が多いのです。案の定、ゆり組が部屋へ戻り給食が始まったのですが、みんなのお皿にはキュウリが残っていました。

そこで、担任が「ゆり組さん、なんて言ってたかな？」と子どもたちに聞くと「ゆり組さんが作ったキュウリだって言ってた。」「おいしいキュウリだって言ってた。」「食べてね！って言ってた。」と言いだし、一口パクッと食べた子が「おいしい！！」と感激すると「僕も」「私も」とクラス全員に広がり、なんと見事にさくらんぼ組全員がキュウリを完食！！おかわりして食べ、キュウリが空っぽになったのです。優しく遊んでくれる大好きな憧れのお兄さん、お姉さんが育てた大切な特別なキュウリ・・その気持ちを年少児なりに感じて「食べてみよう！」と意欲がわき、「よし！」と思って食べてみたら・・特別な味がして美味しかった。ゆり組に「おいしかったよ。ありがとう！」と伝える声も聞こえてきました。次の日は、ふじ組が同じようにやってきました。それ以来キュウリが出る度に「これは、ゆり組のキュウリ？ふじ組のキュウリ？」と聞き、喜んで完食しています。おいしいね！！

畑が完成!苗を植えよう!

♪ぼくはスコップきみはくわ～

畑には看板もなくっちゃね!

はやくおおきくなりますように☆

たくさんほうれん草ができたよ!

畑でとれた野菜でクッキング♪

にんじんケーキを作るよ☆

いただきまーす!!

なすときゅうりのスープ完成!

から年に1度日本選手権を開催し、今年で13回目を迎えようとしています。それに加えて、西日本選手権を毎年名芸の体育館で開催しており、既に8回の大会が実施されています。私が本学の教員であることから、会場を提供できる様になった事がきっかけですが、今となっては大変貴重な大会に育っています。パラリンピックを始めとしてアジア・パラや世界選手権に選手が出場しようとすると、IPCが認めた公認大会において、標準記録を突破しなければなりません。そのため選手は、わざわざ海外まで公認試合を求めて遠征しなければなりません。公認試合の認可を受けるためには、審判員構成や使用器具等々、様々な条件をIPCに提出し、委員会がそれを審査してIPC公認大会として認定する事になっています。日本からも幾つかの大会をその候補として申請しましたが、現在は、日本選手権と西日本選手権の2大会に限って公認されているのです。つまり、名芸で行われている大会は、その記録がIPC公認となりパリンピックへと繋がる貴重な大会になっているわけです。毎年、九州や北海道、関西、関東から選手を迎えて小ぢんまりとした大会ながら、大切な意義の有る大会へと成長して来ました。いつも、数名の本学学生がボランティアで運営に協力してくれており、評判も上々です。今年も6月10日に第9回大会が開催される予定になっています。本年はパラリンピックイヤーなので面白い試合になると思います。日本障害者スポーツ協会やJPCからも役員が視察に訪れ、大会の様子を見守ってくれることでしょう。私は、これからも、この大切な大会を本学で実施していきたいと考えています。また同時に、興味の有る学生諸君に是非ともボランティアとして全国から来校する選手・コーチと関わりを持ち、貴重な時間を過ごして頂きたいと願っております。そうする事で、きっと、この小さな空間から見た事のない世界が見えてくる事も有ると思いますよ。

マスター to アーティスト

eclair
1997

【第16回】
旅・デュシャン・リアル

竹内 創（たけうち　はじめ）
softpad
デザイン学部
メディアデザインコース　講師

1968年　大阪府大阪市生まれ
1990年　大阪芸術大学芸術学部芸術計画学科卒業
1991年　渡仏
2000年　パリ第8大学第三課程DEA（美学）修了
　　フランス国立高等装飾美術学校（ENSAD）
　　マルチメディア・マスター

インタラクティヴ性をテーマにしたCD-ROM、インスタレーション、展覧会の制作。新しい映像表現として観客参加型のインタラクティヴ・シネマを日本とフランス間で研究・制作する。京都を中心に活動するアート・デザイン、音響・映像ユニットsoftpadの一員としても活動する。

大学の3年が終わり、春休みに旅に出た。一人、イギリスからイタリアへと欧州を巡るバックパックひとつの気ままな旅。たいした目的があるわけではない、若者らしい“旅のための旅”だった。でも、それが始まりとなった。「パリに寄ったとき『この街に住んでみたい』と思いましてね。今、思えばそれがきっかけだったんですね」 影響を受けた作家、マルセル・デュシャン（Marcel Duchamp1887-1968）が住んだ街。「自分も、同じ空気を感じてみたい」こんな気持ちが芽生えた。

卒業後、パリ大学へ留学することとなるのだが、最初はもっと単純に「1年間も行ければいいな……」と考えていた。渡仏の資金を貯めるためアルバイトに精を出し、語学学校で仏語を学び始めた。半年後に渡仏。軽い気持ちがいつしか変化した。再び大学へ入ることを志すこととなった。「ご存じですか？　フランスって授業料がメチャクチャ安いんですよ」 パリ大学で年間の授業料が当時1万円程度だったそうだ。「施設はさすがに日本の大学のように整ってなくて、講義が中心なんですがね」 仏語を必死になって勉強してパリ第8大学に合格した。「日本でも勉強してましたが全然ダメでしたね。教科書の言葉で話す訳ではないし、何しろフランス人はもの凄くしゃべる。しゃべる量が多いから、速度も速い。聴いてもわからないし、話せない。不安を通り越して恐怖に感じるほどですよ。でも、鍛えられましたね」

ジャン=ジャック・ルソーの時
2000
ⓐ

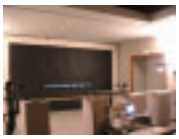
パリ大学でも継続してデュシャンの研究を続けた。そして“師匠”と尊敬するジャン=ルイ・ボワシエ氏（パリ第８大学教授、メディア・アーティスト）との出会いに結びつく。「ボワ

noir/blanc
black/white
2011 ⓒ

携帯情報端末 iPod touch を使ったインタラクティヴ・タイポグラフィ作品。「言葉」と「音」に関心を持った作家の文章を選び、その中に存在する概念、リズム、時間、空間、質感がモバイルスクリーン上で表現される。それぞれの文章の内容に応じて、文字の動きが操作する人の手の動きと連動してインタラクティヴに展開。

sensibilia | 2006 ⓑ

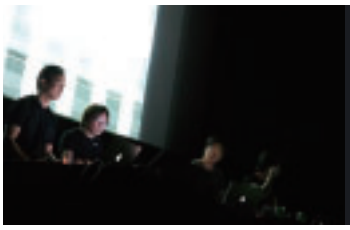
滋賀県立近代美術館の常設展示作品や所蔵品を新たな視点で展示。音響や映像、照明など様々な表現手段を用い、作品のこれまでとは異なった魅力を引き出す。美術館自体のリミックスともいえる取り組みで、印刷物から展示構成にいたるまで、展覧会をトータルに演出。感覚的に作品とふれあう場を提供した。



ECHO | 2011 ⓓ

音の響きを表す「ECHO」の文字が、音のように繰り返され響き合う。

1995年　CD-ROMリヨン現代美術ビエンナーレ
2000年　ジャン＝ジャック・ルソーの時（写真ⓐ）
2001年　プチ・マニュアル・インタラクティヴ
2006年　sensibilia　滋賀県立近代美術館（写真ⓑ）
2006年　geogram　バルセロナ／スペイン
2008年　unicode　京都芸術センター
2011年　GRAPHIC WEST 3（写真ⓒⓓ）
＜ phono/graph　－音・文字・グラフィックー ＞
dddギャラリー



softpad
live
"geogram"

学生時代からバンドを組み、DJ もこなす。「呼ばれればいつでも DJ やりますよ」

シエ先生は、作品は現実とのかかわりが大切と言います。例えば、映像作品を創るとき、撮影する自分と被写体とのかかわりが大切ということ。創作で、作品そのものにも完成されたものはありますが、社会とか世界とのかかわりのほうが重要なんだと」　魅了された。デュシャンの考え方とコンピューターを使った表現が結びつき、さらに作品と社会のかかわり方（=インタラクティヴ）へと繋がっていった。旅は、デュシャンが住んだパリにリアリティを求め、さらに、デュシャンの概念は社会というリアルを求めた。インタラクティヴという概念は、単にコンピューターの世界や映像作品に用いられる対話形式の操作形態ではなく、作品と社会との双方向性、概念と実世界との繋がりを表す、幅広く重要な意味を持った。あてどないように思われた旅には、リアルという一貫した目的があったのだ。

「最近、なんとなくなんですけど、デジタルだけの表現に飽きてきたことを感じるんですね」　映像に映っているものと実際のものの違いを世の中が理解し始めて来ているという。「つい最近までは、大きな画面で、それこそ液晶プロジェクターで見るということでよかったんですが、もう少し、本当にそこで光っているものとか、そこにあるものの存在感が、見直されはじめて来ているように思います」
同時にこのことは、デジタルなもののクオリティが一定の水準に達したことを表しているのではないかとも、付け加えた。「スピーカーから鳴っている音と生演奏の違いです。これからもっとその２つの表現の差が重要になっていくのかな」

デジタルでしか存在し得ない創作物が増えるからこそ実存を求めたくなるのは、単なるノスタルジーだけではないということか。

Information
インフォメーション

出 Books 版　教員著作（翻訳）の出版物のご紹介です。（編集期限までに報告されたもの）

（本誌１８号の出版紹介の中で、『出会いの音楽療法』の翻訳者に誤字がありました。正しくは、「中河 豊」でした。お詫びの上訂正させていただきます。）

■金子敦子
（名古屋芸術大学音楽学部教授）
監修
『大正琴資料図録
―博物館・資料館等の所蔵品による―』
（社団法人　大正琴協会）

■山本文茂
（名古屋芸術大学音楽学部非常勤講師）著
『戦後音楽鑑賞教育の流れ』
―財団誌『音楽鑑賞教育』は何をしたか―
（財団法人　音楽鑑賞協会振興会）

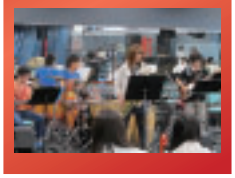
■山本文茂
（名古屋芸術大学音楽学部非常勤講師）監修
『これからの中学校音楽ここがポイント』
―「新学習指導要領」対応完全マニュアル―
（株式会社　音楽の友社）

■西村和泉
（名古屋芸術大学美術学部教養部会講師）翻訳
『ベケット』
―果てしなき欲望―
（水声社）

■栗田秀法
（名古屋芸術大学美術学部准教授）
日本語テキスト監修
『恋する静物　静物画の世界』
（展覧会図録・名古屋ボストン美術館、２０１１年）

■橋本裕明
（名古屋芸術大学副学長／デザイン学部教養部会教授）
翻訳［共訳］
『ヘルマン・ヘッセ　エッセイ全集』
第５巻　随想Ⅱ
（１９０５～１９２４）
（臨川書店）

2012年度 オープンキャンパス日程



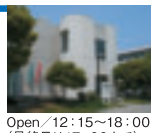
■ 音楽学部
6月16日（土）　10:00～
9月30日（日）　10:00～

■ 人間発達学部
6月16日（土）　10:00～
7月21日（土）　10:00～
8月25日（土）　10:00～
9月30日（日）　10:00～

■ 美術学部・デザイン学部
6月16日（土）　10:00～
7月16日（月・祝）10:00～
9月30日（日）　10:00～

■ 一日芸大生
7月29日（日）　10:00～

アート&デザインセンター 2012展覧会スケジュール（4月～9月）



Open／12：15～18：00
（最終日は17：00まで）
日曜・祝祭日原則休館（※）

4月13日（金）～	4月18日（水）	「What I am」
4月13日（金）～	4月25日（水）	桝田君代展
4月20日（金）～	4月25日（水）	プリズム
4月27日（金）～	5月 9日（水）	TONNERU
4月27日（金）～	5月 9日（水）	「沈黙の彼女」
4月27日（金）～	5月 9日（水）	芝生敷く
5月11日（金）～	5月23日（水）	2012年度企画展
		BITE-SIZE 日英テキスタイルアート交流展
5月25日（金）～	5月30日（水）	peace nine 展
5月25日（金）～	5月30日（水）	『版画コース・コレクション』展
5月25日（金）～	6月 6日（水）	NEW IDEAS IN MEDALLIC SCULPTURE at NUA
6月 1日（金）～	6月 6日（水）	創作折紙作品展
6月 1日（金）～	6月 6日（水）	glow
6月 1日（金）～	6月 6日（水）	ファーブルの手仕事図鑑
6月 8日（金）～	6月13日（水）	『FROM DENMARK 2012』展
6月15日（金）～	6月20日（水）	名古屋芸術大学教員展
6月22日（金）～	6月27日（水）	名古屋芸術大学OB・OG展
6月22日（金）～	6月27日（水）	カモネ展
6月22日（金）～	6月27日（水）	川平と高田
6月29日（金）～	7月 4日（水）	反原発ポスター展
7月 6日（金）～	7月11日（水）	2012年度　前期交換留学生作品展
7月13日（金）～	7月18日（水）	洋画2コース2年生学生選択展
7月20日（金）～	7月25日（水）	洋画1コース3年 展
7月27日（金）～	8月 8日（水）	素材展
9月21日（金）～	9月26日（水）	To Soft Sculpture展
9月28日（金）～	10月 3日（水）	彫塑コース作品展
9月28日（金）～	10月 3日（水）	雨の日を楽しくするデザイン
9月28日（金）～	10月 3日（水）	有田文庫

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
（入場無料）どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先／（０５６８）２４－０３２５

（※）■5月20日（15時まで開館）、7月1日・16日、9月30日は開館　■4月19日、5月1日・2日・31日は休館　詳しくはお問い合わせ下さい。

2012年度 音楽学部演奏会スケジュール（5月～9月）

5月　音楽学部同窓会第31回新人演奏会
日時／ 2012年5月16日（水）18:30開演予定
会場／電気文化会館　ザ・コンサートホール
入場料／無料（全自由席）

7月　コンチェルトの夕べ
日時／2012年7月12日（木）18:30開演予定
会場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／無料（全自由席）

8月　第13回ピアノ・サマーコンサート
日時／2012年8月9日（木）17:00開演予定
会場／名古屋芸術大学3号館ホール
入場料／ 無料（全自由席）

NUA Strings 第5回定期演奏会
日時／2012年8月30日（木）18:00開演予定
会場／電気文化会館　ザ・コンサートホール
入場料／前売2,000円・当日2,500円

9月　ウインドオーケストラ第31回定期演奏会
日時／2012年9月27日（木）18:30開演予定
会場／愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料／ 1,000円（全自由席）

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
お問合せ先／（０５６８）２４－５１４１

表紙の写真

森泉　博行先生
（音楽学部　ミュージカルコース）
ミュージカル練習風景

ミュージカル公演「アンサンブル～素晴らしき脇役達の青春～」
（名古屋市芸術創造センター 3/15～）最終稽古
学生たちを温かくも厳しく見守る、森泉博行教授。
最後の通し稽古で、タイミングや見え方を最終調整。
明後日には幕が開く。（3/13撮影）

発　行：名古屋芸術大学
編　集：全学広報誌編集委員会
制　作：（株）クイックス
発行日：2012年4月23日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学　広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話　0568-24-0359
FAX　0568-24-0369
E-mail：grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan University Accreditation Association
since 1947
UNIVERSITY ACCREDITED
2011. 4～2018. 3

大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。